



左の大きな建物が小中学部、右上の白い建物が幼稚園

成長著しい国



インドネシアは「赤道にかけられたエメラルドの首飾り」と呼ばれるほど、豊富な地下資源と緑豊かな自然環境に恵まれた国である。総面積は日本の約五倍、人口は約二億四〇〇〇万人で世界第四位、年間二パーセント以上の割合で増加している。多民

●インドネシア●

ジャカルタ 日本人学校

族国家であるインドネシアは、一九四五年の独立宣言以来、「多様性の中の統一」を国の標語として掲げながら「統一」をはかっている。ここ数年は世界の中でも有数の経済成長を遂げ、日本企業がどんどん進出してきている。それに伴って本校の児童生徒数も昨年度から急増している。

堅調な経済成長に伴い、オートバイや車を所持する人がたいへん増えているが、インフラ整備等の遅れで、交通渋滞は世界一といわれている。

現地の教育環境

インドネシアの現地校は二学期制で行われていて、七月から十二月が一学期、一月から六月が二学期である。学制は日本と同様、六・三・三制である。子どもの数に対して教室やグラウンドなどの施設・設備が不足しているため、午前は一、二、五、六年生が、午後は三、四年生が使用するといったケースが多い。また、一つの校舎を午前と午後で別々の学校が使用しているケースもある。

日本人の子どもにとっては言語や宗教的



中学部1年 国語



小学部4年 総合的な学習の時間（インドネシア理解）

な問題（国民の約九〇パーセントはイスラム教徒）などから、本校がインターナショナルスクールのいずれかに通学する場合はほとんどとなっているが、本校中学部を卒業後に、現地校への進学を希望している生徒が数人いる。

「誰もが行きたくなる学校」を目指して

本校は一九六九年に開校し、今年で四十二年を迎える。九三年三月まで使っていた校舎の老朽化と児童生徒の増加に伴い、九六年四月に現在のピンタロ校舎を新設し移転した。敷地面積七万九一九二平方メートル、三階建ての校舎三棟、小・中学部別に全面天然芝の運動場、体育館、プール、コンピュータ室があり、恵まれた施設・設

JJSフェスティバル(文化祭)



中学部3年によるお神輿パレード



SEKOLAH JEPANG JAKARTA

URL <http://www.jjs.or.id>

児童生徒数 幼=177人 小=698人 中=177人

子どもたちから

JJSは自ぜんがたくさんあってとてもきれいです。インドネシアは暑いので、プールのじぎょうはすごく気持ちいいです。(小4)

JJSは小学部と中学部が同じ建物で仲がとても良いです。現地校の人達と交流があり楽しいです。(中1)

授業では、みんな積極的に手をあげ、分からない所があったら先生方が細い所まで教えてくれます。(中3)

小学部1年 こいのぼり集会



小学部5・6年 体育祭での学部演技



中学部女子全員によるダンス



備の中で八七五人の児童生徒が快適な学校生活を送っている。本校では「総合的な学習の時間」を活用してインドネシアを理解するために自分たちでさまざまなことを調べたり、現地の学校と交流活動をしたりしている。また「英会話」を小学部一年から取り入れ、五年生以上は週二時間の学習をしていることが特色として挙げられる。また本校には体育祭、JJSフェスティバル(文化祭)、遠足、宿泊学習、修学旅行など日本国内の学校と同様にたくさん学校の行事がある。特に体育祭とJJSフェスティバルでは、小・中の区別なくいっしょに活動し、大いに盛り上がる。共に一つのことに取り組み中で、中学生の優しさが小学生に伝わり、小学生は中学生の頼もし

さを感じている。幼稚園は四歳児、五歳児の二学年各クラスで現在一七七人が通っている。園児は広々とした園舎の中で基本的な生活習慣や人とのかわり方を学んでいる。保育では日本の行事や文化を大切に、隣接する小・中学校や地元の幼稚園とも交流を深めている。色とりどりの花と樹木に囲まれた柔らかな自然の中で、教職員と保護者が共に力を合わせ、ジャカルタ在住の邦人の皆様力を借りながら、「誰もが行きたくなる学校」を目指している。学校行事や日々の出来事をホームページやブログで紹介しているので、ぜひご覧いただきたい。(二〇一一年十月現在)